

63【街の散策からの気づき発見】

神田川源流域散策 1 井之頭公園

会員 K.T.

神田川の源流域を散策しようと吉祥寺駅にきている。南口を出ると、いきなり車道だ。ロータリーはない。誘導係の人が「バスがきます、車道にでないでください。」、と大声で叫んでいた。

JR 吉祥寺駅は京王井の頭線の終点駅でもあり、人通りは多い、バスは徐行運転をしているも、運転手は気を抜けないだろう、と思う。さて、井之頭公園は JR 吉祥寺駅から徒歩5分のところにある、神田川の源流となる井之頭池が、井之頭公園の真ん中にある。その井之頭池からの落水が、神田川の起点になっている。

この土地は江戸時代、幕府直轄地であった。明治維新後に東京府が買い上げ、明治22年(1889)に宮内省御用林となり、大正2年(1913)に東京市に下賜され、その後大正6年(1917)、井之頭恩賜公園として開園された。公園は428千㎡(東京ドームの約9倍)の広さ、井之頭池は約42千㎡(東京ドームの約90%)の広さがある。公園管理者は東京都、所在地は武蔵野市と三鷹市に跨っており、北側が武蔵野市、南側が三鷹市になる。皇室から賜ったことから正式名称は「井之頭恩賜公園」とされているが通称で「井之頭公園」と呼ばれている。公園敷地の約2/3が三鷹市、約1/3が武蔵野市になるらしい。池の一周は徒歩で30分ほどとのこと。反時計回りに神田川の起点碑がある水門橋まで散策する。池は緑色だ。アオコが大量発生しているのだろう。かつての井之頭池は湧水口がいくつもあったことから七井の池とも呼ばれた。戦後、周辺地域で都市化や地下水利用が進み地下水の水位が低下、昭和38年(1963)には池が干しあがった。その後、地下水をポンプでくみ上げ、水量を維持している。

三鷹市の資料によると、かつて、湧き水が豊富だった時代は池水が6日ほどで入れ替わっていたが、人工的給水主体となった後は約16日を要する、という。池の水の循環が悪いのだ。アオコは植物プランクトンが大量発生したもので、水の循環が悪い場所に繁殖する。地下水の自然環境が悪くなっているのだ。池の周りを散策すると、野口雨情(1882～1966)や中田喜直(1923～2000)の歌碑があった。詩人の野口雨情は、大正13年(1924)から昭和19年(1944)、約20年間武蔵野市吉祥寺に住み、井の頭公園をよく散策したらしい。作曲家の中田喜直は、昭和20年(1945)から昭和26年(1951)、約6年間三鷹市に住み、井の頭公園を散歩する中で、「ちいさい秋みつけた」のメロディーを着想した、という。井之頭公園にはモミジ・イチョウ・ケヤキ等の樹木が多くあり、春の新緑、秋の紅葉は綺麗だ。自然を感じる風景は芸術家の感性を刺激するのだろう。井之頭公園の中に、この地とご縁があった芸術家を思い出させる記念碑があることは良いことだと思う。

余談ながら、今年5月8日埼玉新聞ネット配信で、「旧春日部市役所跡地に公園構想 クレヨンしんちゃんを活用した施設に市と6社が基本協定締結 計画面積は約1万3千平方メートルで、パーク PFI の活用は同市初。企業群「KASUKABE パートナース共同事業体」(後略)」のニュースが出ていた。パーク PFI とは、Park-Private Finance Initiative の略で、日本語の正式名称は「公募設置管理制度」、公共施設の建設・維持管理・運営に民間資金やノウハウを活用する手法で収益施設の設置と公園施設の整備管理を一体的に行う民間企業を公募で選定する制度、のことだ。事業体によると、施設名は「(仮称)春日部しんちゃんパーク」となるらしい。願わくば、春日部市はアートの街づくりを長年やってきているので、漫画家 臼井儀人(うすいよしと/1955～2009)、俳人 加藤楸邨(かとうしゅうそん/1905～1993)、小説家 三上於菟吉(みかみおときち/1891～1944)等、この地とご縁のある芸術家の記念碑も園内に設け、アートの街感を出して欲しい、と思う。



吉祥寺駅/南口



野口雨情 歌碑



井之頭公園入口付近



御茶の水



井之頭池



中田喜直 歌碑